

諏訪地区教科用図書採択研究協議会並びに

諏訪地区教科用図書調査研究員会合同会議 次第

平成29年7月31日（月）

午後3時30分～

諏訪教育会館 会議室

1. 開会

2. 採択協議会長あいさつ

3. 校長会長あいさつ

4. 議事

(1) 平成30年度以降使用諏訪地区教科用図書採択の調査について

ア 事務局から教科書展示会の結果について

イ 調査研究員会から教科用図書の調査報告及び選定について

(2) 市町村教育委員会における採択報告及び情報公開について

(3) その他

5. 閉会

「諏訪地区教科用図書採択研究協議会並びに諏訪地区教科用図書調査研究会合同会議」議事録

平成29年7月31日（月）午後3時30分～5時00分

於：諏訪教育会館 会議室

1. 開会（岡谷市教育総務課）
2. 採択協議会長あいさつ（岡谷市教育委員会 岩本教育長）

みなさんこんにちは。大変暑い日になりましたが、月末のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今日は調査研究会の役員長、副役員長にお出でいただいております。調査研究会の先生方には、夏休み前のお忙しい中、何回も研究会を重ねていただき、報告書を作成・提出していただきました。心より感謝申し上げます。とりわけ、役員長、副役員長の先生方には、研究の方向あるいは様々な段取り等、丁寧に細かく見ていただき充実した議論をしていただきました。重ねて御礼申し上げます。本日は、平成30年度から使用いたします、小学校の「特別の教科 道徳」の教科書につきまして、調査研究会から報告された資料に基づいて、教科書を選定してまいりたいと思っております。教科書は、子どもたちにとって学習の大事な教材でございます。どんな教科書でどんな学習をするかは、子どもたちにとって極めて大事なことでございます。道徳の教科書でございますので、人間としての技量あるは価値観、生き方、倫理観等いろいろな力を培っていくための大事な教科書だと思っております。今日お集まりの協議会員の皆様には、学習の主体者である子どもたちの立場に立って活発な議論をしていただき、適切な教科書を選定していただけたらと思っております。いずれにしても、新しく教科化されるということもあり、保護者、子どもたち、地域の皆様が大変注目を寄せております。また、教科書を拝見し、どの教科書も大変よくできた素晴らしい教科書だと感じております。それだけに、甲乙つけがたい大変難しい選定になると思っております。知恵を合わせて、活発な議論の中で子どもたちにとって、より適切な教科書を選定できればと思っております。本日はよろしく願いいたします。

3. 校長会長あいさつ（諏訪小中学校長会長 茅野市立永明小学校 曾根原校長）

こんにちは。昭和33年の道徳以来、大きな転換期を迎え、来年から小学校では「考え、議論する道徳」へと転換していくということで、それぞれの学校では、現場としてどういうことができるのか、といった研修を詰めているところでございます。調査研究会の先生方には、学期末のお忙しい中、何回も調査研究会を開いていただきながら進めていただきました。今日は選定にあたって、本日の結果を受けながら学校現場としても準備を進めていきたいと思っております。本日はよろしく願いいたします。

4. 議事（座長：岩本協議会会長）

事務局： それでは議事に入ります。机の数箇所に、今回選定する8社全ての教科書を配っております。議論の参考にしていただければと思います。本日は過半数及び全地区一名以上の出席がありますので、本会議は成立いたします。規約により会長が議長を務めることになっておりますので、岩本会長よろしくお願いたします。

（1）平成30年度以降使用諏訪地区教科用図書採択の調査について

ア 事務局から教科書展示会の結果について

会長： それでは(1)の平成30年度以降使用諏訪地区教科用図書採択の調査についてのうち、ア 事務局から教科書展示会の結果について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局： 教科書展示会は、南信教育事務所により6月20日から7月11日のうち14日間、諏訪教育博物館で開催されました。来場者受付状況、アンケートの提出状況については添付の通りです。内訳といたしましては、諏訪市19名、茅野市9名、岡谷市4名、下諏訪町と富士見町が各2名の、計36名となっております。職業の内訳は、三分の二にあたる24名が教職員または教育委員会の職員でした。アンケートは15件でした。これらは調査研究の参考として、調査研究員長に事前に配布させていただきました。

会長： ただいまの説明に対しご質問ございますか。（質疑なし。）何か特徴的な意見はありましたか。

事務局： 採択に関わるような記載はありませんでした。

イ 調査研究員会から教科用図書の調査報告及び選定について

会長： それでは次に、イ 調査研究員会から教科用図書の調査報告及び選定について、議事を進めます。研究員会から報告をいただき、質疑・意見交換をしてみたいと思います。研究結果報告の最初か最後に、研究員会としてどの教科書が最も適切であるか、根拠を含めて説明してください。それでは研究員長お願いいたします。

研究員長： 道徳の教科書について、8社の教科書が示されましたので調査研究結果を報告いたします。まず、適当と認められる教科書は、東京書籍、光村図書、学研教育みらいの3社です。その他の教科書は、学校図書、教育出版、日本文教出版、光文書院、廣済堂あかつきの5社です。各教科書とも、道徳の目標・ねらいを考えた教科書づくりがなされていると思います。始めに、その他の教科用図書とした5社の説明を致します。（別紙調査研究報告書

の所見の説明。)次に、適当と認められる3社について説明致します。(別紙調査研究報告書の所見の説明。)

以上適当と認められる3社について説明させていただきましたが、子ども達の主体的・意欲的な学び、多様な学び、今日課題への学び、また子ども達の発達段階や学びやすさへの配慮を考えたとき、研究会としては、東京書籍が最も適当であると考えます。

会長：まず、その他の教科書5社についてご質問、ご意見ございますか。(質疑なし。)

それでは、調査研究会から追加で説明がありましたらお願いいたします。

研究員長：まず、学校図書であります、二分冊(教科書と別冊の二冊で構成)は工夫ではあるが、学び順になっていないことにやりにくさがあると思います。また、主題が漢字で書かれており、低学年においても問いが多いところが課題であると思います。

教育出版であります、主題に対しての問いが示されております。これは大事ではありますが、子ども達がこの問いにとらわれて学習するのではないかという懸念があります。また、1年生の最初のページに、質問に対して教科書に書き入れる部分がありますが、1年生にとっては難しい学習になるのではないかと思います。

日本文教出版であります、例えば、「今日の学習はどうでしたか?」という振り返りが、毎時間同じ質問・評価で答えるようになっております。また、「問題を考えよう」という問いがあるが、主題に対しての方向性が示されることによって、子どもたちが柔軟に考えるという点でどうかと思うところがあります。

光文書院であります、キャラクターによる問かけがありますが、ある意味では良いが、いくつもあることによって資料から意識が離れてしまうことが懸念されます。また、終末の発問が、資料から離れて、自己を問うものが多いと思います。教科書の大きさがA4のため見やすい一方で、低学年が扱うにはやや大きいのではないかと思います。

廣済堂あかつきであります、各学年とも道徳ノート(別冊)がありますが、道徳的価値ごとになっており、扱いやすさに疑問が残ります。また、これだけの学習量を毎時間確保することは、資料によっては難しいのではないかと思いますし、良さと同時に、その時間で考える道徳的価値についてはっきり示すということは、示されたことに従って考えていく学習にならないか、という懸念があります。

会長：付け足しで説明いただきましたが、ご質問、意見等ございますか。

協議会員：二分冊の扱いと指導の難しさについて、研究会の報告と同じように感じました。納得のいく調査研究がなされたと感じました。

- 会 長 : 道徳ノートが用意されている会社(二分冊)と教科書一冊のみの会社がありますが、これについてご意見ありますか。
- 協議会員 : 子ども達の使いやすさを考えると、授業を週1回で行うため、やるが多くなると、考えるより書くことに先生が力を入れなければいけないため、一冊でまとめた教科書が良いのではと思います。
- 会 長 : 他にご質問、ご意見はありますか。(質疑なし)
次に、3つの教科書が適切であると報告をいただきました。その報告についてご質問、ご意見はありますか。
- 協議会員 : 今回は道徳の採択ですが、子どもが本来学習すべきものや学習の仕方の基本的な部分は、時代が変わってもあるはずだと思います。長野県の道徳は本質的に考えさせる道徳をしてきました。また、身近な生活、子どもたちが生きている空間を取り入れた道徳の資料を、長野県では自作してきました。そういった点で、余分なものがないオーソドックスな教科書が良いと思います。そういう意味でいくと、適切だと思われる3社は、長野県の道徳で大事にしてきたものと近いと思います。
- 協議会員 : 学校現場に関わっていたときは、子ども達に身近な素材であり、心を寄せて考えられる道徳教育を目指してきました。子どもたちが身近なところに心を寄せて考えられる教科書であってほしいと思います。単純に見て感じたことですが、東京書籍のAB版や光村図書のB5版といった、教科書の大きさや活字の大きさ等、年代に応じた配慮が必要かと思います。
- 研究員長 : 全部で4種類の大きさがあります。
- 協議会員 : 適当と認められる教科書の中では、3種類の大きさとなります。
- 協議会員 : ユニバーサルデザインを意識して大きさが決まっているようですが、AB版とA4版のように大きさの違いによる特色はありますか。
- 研究員長 : 教科書が大きくなる分、横のスペースが広がるため、行数が少なくなります。
- 協議会員 : 絵が大きくなり、行間が広がる分、同じ分量でも子どもたちにとって読みやすくなります。その分、教科書が大きければ大きいほど机いっぱいに広がるため、扱いづらくなります。そのため一長一短があります。扱いやすさで言えば、学研の教科書は大きいため、低学年には扱いづらいと思います。コンパクトで扱いやすい教科書は光村図書、行間を意識した教科書は東京書籍だと思います。
- 協議会員 : 学校図書、光村図書、学研は他教科との関連や日常生活との繋がりが非常に意識されているが、東京書籍はそのあたりはどうですか。
- 研究員長 : もちろん東京書籍も意識されています。学研は「いのち」について大事にしていると報告しましたが、時間数については、東京書籍も光村図書も同じような時間数で扱っております。ただ、学研は連続した授業で学べるようになっています。

- 協議会員 : この3社については甲乙付けがたいと感じています。
- 研究員長 : ただ、学研については、「いじめ」について直接的な資料で扱うようにはなっておりません。
- 協議会員 : 東京書籍は主体的・意欲的な学び、生活への配慮が意識されていると報告していますが、他の教科書会社にも同じことが言えると思います。東京書籍については、この点を一番の理由にしていますが、より具体的な理由はありますか。
- 研究員長 : 東京書籍は、子どもの発達段階を良く考えられています。例えば1、2年生で言えば、問いかけを大事にしながら考える授業、3年生以上では、教材に対する中心的価値と生活をつなげています。こういった部分が優れていると思います。
- 協議会員 : 2点お聞きします。1点目は、3社の中で東京書籍のように冒頭で問いかけをして、何を勉強するかを示している教科書と、学研のように方向性を明示せず、子どもが思うことを大事にする教科書がありますが、この違いが道徳の授業において、どのような違いとして出てくるのかをお伺いしたいです。2点目は、子どもたちへの授業評価に対する配慮が、どのようにされているかをお聞きしたいです。
- 研究員長 : 1点目ですが、子どもたちが問題意識を持って学習に望むことが大切だと思います。そういったとき、何も無いところから考えるのではなく、「今日はこのことを学ぶ」といった問いかけが、特に低学年にとっては大事だと考えます。かといって、あまり方向性を示すような問いかけや、「考えましょう」といったことではないため、東京書籍の学年に応じた問いかけが良いと考えます。2点目の評価については、教科書会社によっては毎時間ごとに評価していく教科書もあるが、毎時間の内容によって評価項目は違ってくると思いますので、子どもたちの学びの内容に応じて評価することが大切だと思います。その1時間に応じて評価することが、大切だと思います。東京書籍では、心に残ったことを書き入れるようになっています。光村図書は毎時間振り返りがありますが、特に高学年の場合、教科書の資料が長くなってきたときに、振り返りの時間が持てるのかという不安もあります。細かなことではありますが、問いを示されている箇所を3社で比較すると、東京書籍は字が小さく、学研は若干小さくなっている一方、光村図書は文字が大きく目立つようになっています。目立つということは良さであると同時に、子どもたちの意識が、問いの内容に向いてしまうことがないか懸念されます。
- 協議会員 : どういう道徳を目指すのが大切だと思います。道徳は自分が考えることが大切だとすれば、問いが邪魔となってしまうこともあります。
- 研究員長 : 教科書の最初の部分に、道徳の時間に対する各社の考え方・特徴が出ていると思っています。東京書籍は、4つの視点から考えられています。例え

ば、学年に応じて話し合う、考える、自分のことを振り返ることを大事にしています。学研もそういった言葉で書かれています。光村図書は、全学年において「考える」ことを大切にしておりますが、授業の問いかけとしての考え方を考慮したとき、東京書籍の考え方が良いのではないかと思います。

会 長 : 副研究員長、なにか意見ございますか。

副研究員長 : 調査研究会でも大論争となりました。東京書籍と光村図書で考えが割れましたが、最終的に東京書籍となりました。光村図書は、資料の原典を大事にしております。外国の話を用いた題材では、原典に忠実に合わせるということで、通貨を「ドル」の表記をしていますが、他の教科書会社は、実態に合わせるため「円」に変換しています。また、「原典に忠実」としているため、叙述を省略しておりませんが、他の教科書は叙述を簡潔にまとめております。先ほど、発問の議論がありました。光村図書の発問は練りに練ってあり、すばらしい発問です。東京書籍では、2つの発問しかないため、実際の授業では教科書にない補助発問などを入れながらの授業になるかと思えます。一方で、発問があまりにも良すぎてしまって、先生方の授業の許容量が狭くなってしまふ懸念がありました。こういったことも踏まえ、総合的に考えた結果、研究会として東京書籍という結論となりました。

会 長 : 他にご意見、ご質問等ございますか。

協議会員 : 研究員の皆様は本当に苦勞して3社を選ばれたと思えます。道徳の授業で大事なことは、感動する教材、心に残る教材だと思います。そういった点で見たとき、東京書籍は国際理解教育、環境の問題等、時代に即した資料が載っており、研究会が提案した東京書籍が良いと思えました。

会 長 : ある程度方向性が示されたと思えますので、研究会で提案した東京書籍が良いのか、それとも違う教科書が良いのか、といった意見があればお願いしたいと思います。

協議会員 : 5年生の教科書に絞って、教科書を見てみました。同じような内容の資料でも、教科書によって書く内容がずいぶん違うと感じました。発問の仕方でも教科書によって様々な違いがありましたが、元の資料を省略しない発問が良いと思えました。

協議会員 : 子どもたちが見たとき、絵の多い教科書が良いかと思えますが、先生が授業すると考えたとき、東京書籍は子ども達が落ち着いて考えられて、良いのではないかと感じました。感覚的、視覚的に東京書籍が良いと感じていましたが、研究会でも東京書籍が提案され、納得した報告であったと感じました。

協議会員 : 道徳の授業は、子どもたちに日頃の事象の中で考えてもらい、学んでもらう授業だと思っています。そうした場合、身近な教材・馴染める教材が良

いと思いました。そうした意味で、東京書籍や学研が良いと思いました。もう一つは、先生方にとって問いかけが形作られていたほうが良いか、それとも自由度があるものが良いのか、そこが学研と東京書籍の違いという意見がありましたが、先生方が子どもたちと関わる時に、どちらが子どもたちにとって良いのか、先生方が教えやすいのかだと思います。そうした意味で、東京書籍か学研のどちらかが良いと思いました。

- 会 長 : 今の点について何か意見はありますか。
- 研究員長 : 発問という意味では、東京書籍は資料からの内容に即した中心的な発問を大事にし、次の発問で子どもたちが自己を見つめるという構成になっています。そう考えたときに、東京書籍が子どもたちにとって考えやすい問いになっていると思います。
- 協議会員 : 調査研究員の先生方に報告していただいたように、よく検討されていると思いました。研究員会の意見にお任せいたします。
- 協議会員 : 調査研究員の方々には、教科書を非常に良く研究していただいているなど感じました。道徳は生活に密接した教科だと思いますし、子どもたちが自分で考える力を付けてもらいたい教科だと思います。また、子どもたちへの評価が、先生方にとって非常に難しい教科だと思います。研究員会で報告いただいた中で、東京書籍は問いかけによって方向性をまとめない形式であるという報告がありましたが、子どもたちに考えさせ、多様な意見を一つにまとめない形式が良いと感じました。
- 協議会員 : 意見を聞く中で、子どもが主体的に関わり・考え・判断する力を育てることに、道徳教育の意味があると感じました。そういった点で考えると、研究員会で提案された東京書籍が良いと思います。
- 協議会員 : 資料を見させていただく中で、研究員の皆さんは本当に苦労されたのだろうと感じました。東京書籍のページ下の余白がゆったりしていることが良いのか、学研の1ページに目一杯の文字が良いのか、有名な選手の扱いなど、視覚的にも手にとって読んでみたいという印象があります。ただ、自分として授業をするにあたっては、どの教科書を使ってもできないことでもありませんし、実際の先生方の授業の形態によっても選択が難しいと思います。教科書によって、発問の書き方が丁寧であったり、文字が大きかったりということもあるが、子供たちが身近な部分で、自分もそういった経験があると感じやすいのは、東京書籍が分かりやすいと思います。
- 協議会員 : もし、1年生から6年生まで教科書を分けられるなら、低学年を東京書籍、高学年を光村図書にしたいなどと思いました。光村図書は、叙述の深さがすばらしいと思います。また、豊富な情報量、教科書作りの巧さを感じ、非常に良くできている教科書だと思います。高学年に読ませたい気持ちでおりますが、研究員会の判断に賛同し、東京書籍としたいと思います。
- 協議会員 : 最終的に光村図書か東京書籍だと思いましたが、決定打が無いと思ってい

ました。委員の皆さんの意見を聞く中で、発問の扱いが非常に大きいのだと改めて感じました。これまでの長野県の道徳に対する姿勢、考え方を考えたとき、光村図書は研ぎ澄まされた発問なだけに、逆にそれがどうなのだろうか、という思いがあります。目に入ってくる鮮明度・インパクト・見やすさが、行間の取り方・ページ下の余白によってかなり違うため、扱いやすさという点で東京書籍が良いと感じました。

協議会員：東京書籍か光村図書かで悩みました。光村図書は、「読む」ということについて非常に価値があると思います。原典に忠実になっている姿勢が良いと感じました。しかし、道徳の教科書は国語の授業ではありません。道徳の授業にあたっては、総合的に考えて東京書籍が一番だと感じました。最近、ユニバーサルデザインが話題となっていますが、道徳の授業の中でもこれについて学ぶこととなります。そういったことを教科書で実践されており、見るだけで心遣いがわかります。行間の取り方や字の大きさ等、十分な配慮を行っている東京書籍に軍配があがるように思います。

会長：皆さんからご意見をいただきましたので、最終決定をしたいと思います。特別の教科 道徳の教科書は東京書籍で決定してよろしいでしょうか。異議ございませんか。（異議なし。）

ありがとうございました。それでは、慎重な協議の結果、協議会として東京書籍を選定いたします。研究員長、副研究員長はじめ協議会員の皆様、本当にありがとうございました。

(2) 市町村教育委員会における採択報告及び情報公開について

会長：それでは、次の議題 (2) 市町村教育委員会における採択報告及び情報公開について、事務局より説明をお願いします。

事務局：それでは、まず採択の報告について確認させていただきます。本日の協議結果を持ち帰り、各市町村教育委員会において8月7日(月)までに採択を行っていただき、報告書により協議会事務局であります、岡谷市教育委員会へ報告をお願いいたします。各市町村事務局へは7月3日付で通知してございますので、ご確認ください。事務局が全市町村の報告を受け、採択事務の完了を確認できましたら、その旨を各市町村に連絡いたします。それ以降、各市町村における採択の公表は、それぞれのご判断で行ってください。また、協議会、研究員会の開催経過、資料等、協議会としての公表は、協議会事務局であります岡谷市教育委員会が一括して行います。公表については、事務局にて協議会議事録を作成し、岡谷市教育委員会のホームページ上において公表していこうと考えています。なお、今後の静ひつな採択環境を確保するために、協議会長を除く採択研究協議会構成員及び調査研究会研究員の名簿については公表せず、議事録にお

いても発言者の氏名は記載しないこととします。各市町村の公表に際しましては、協議会に関することは岡谷市教育委員会で公表されている旨を表記、または、各市町村の公表サイトにリンク設定をしていただく等の対応をお願いいたします。最後に公表の時期ですが、議事録作成・確認の時間を考慮し、また県下の各採択地区の状況から9月1日を予定して準備を進めていきたいと考えております。説明は以上になります。公表についてご協議いただきますようお願いいたします。

会 長 : ただいまの説明につきましてご意見、ご質問ございませんか。(質疑なし。)
それでは、事務局の説明の通り実施いたします。

(3) その他

会 長 : それでは、最後に(3) その他として何かありますか。

事 務 局 : 事務局からは特にありません。

会 長 : 協議会員の皆様からも何かございますか。(質疑なし。)

それでは、以上で議事は終了でございます。本日は、教科書採択にかかわり慎重かつ誠実に議論いただきましたことに心より感謝申し上げます。今後、事務局から説明がありましたように各市町村において、今日の結果を踏まえ、先ほど事務局から説明があった日程にて採択事務を進めていただきますようお願いいたします。本日は本当にありがとうございました。

5. 閉会（岡谷市教育総務課）